

“となみ創生”まちづくり総合戦略

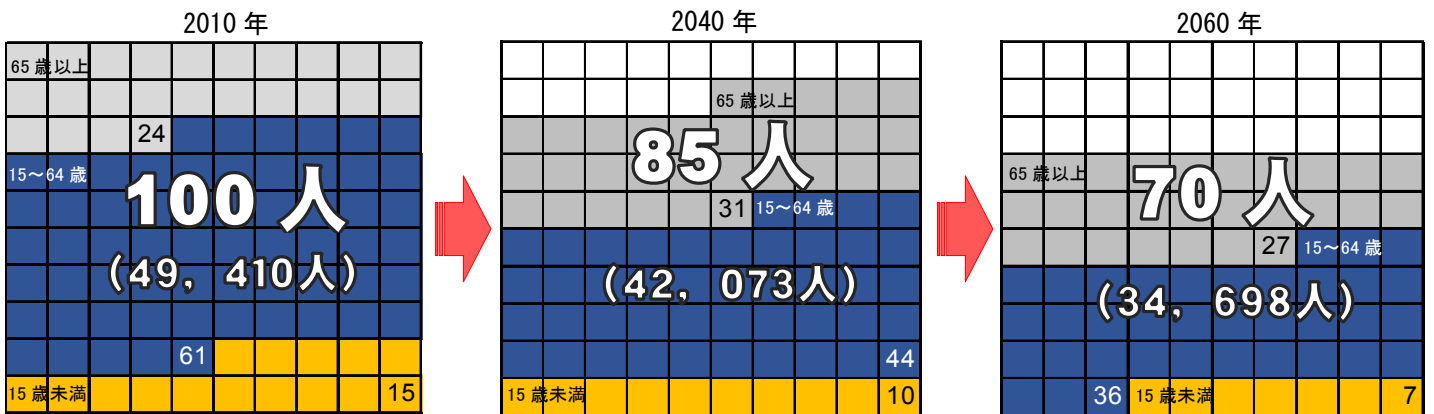
2008年（平成20年）に始まった日本の人口減少は、地方を中心に急速に進み、2020年（平成32年）の時点で毎年60万人程度のペースで進行する人口減少が、2040年（平成52年）には毎年100万人程度の減少スピードにまで加速すると予想されています。**この人口減少は、特に地方における地域経済の縮小、雇用の減退、生活関連サービスの低下を招くなど、地域社会に数々の悪影響を及ぼすもの**と考えられます。

このような状況を食い止めるため、国は2014年11月に「まち・ひと・しごと創生法」を制定するとともに、日本の人口の現状と将来の姿を示し、今後目指すべき将来の方向を提示する「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン（長期ビジョン）」および、これを実現するための今後5か年の目標や施策ならびに基本的な方向を提示する「まち・ひと・しごと創生総合戦略（総合戦略）」を策定しました。

これを踏まえ、本市においても人口の現状を分析し、今後の目指すべき方向と人口の将来展望を示すとともに、**人口減少の克服や地域経済の発展、活力ある地域社会の形成を目指し、市民と行政が力を合わせ“となみ創生”の実現に向けて取り組むため**「砺波市人口ビジョン」および「“となみ創生”まちづくり総合戦略」を策定します。

砺波市人口ビジョン

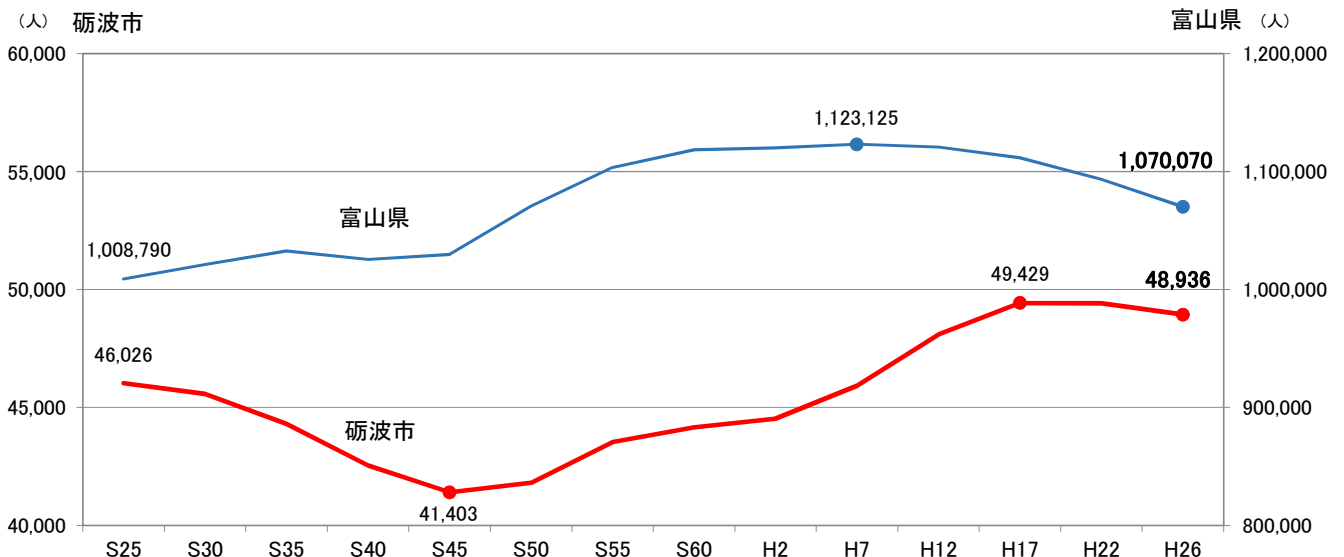
○砺波市が100人のまちだったら ～このままでは、砺波市は、今後深刻な「人口減少」の局面を迎えます。～



資料：国立社会保障・人口問題研究所推計

人口の現状分析

○人口の推移

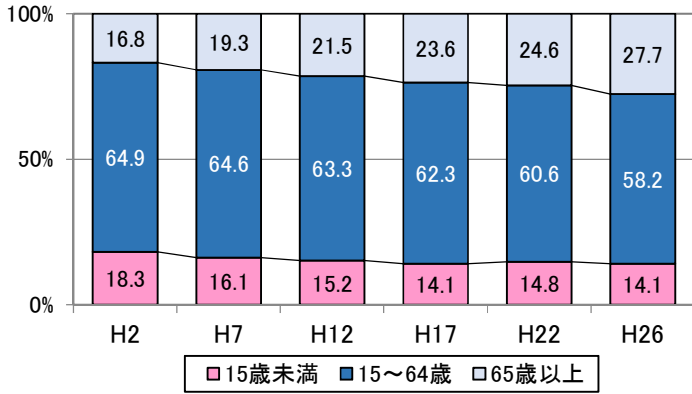


※平成12年以前の砺波市人口は、旧砺波市と旧庄川町人口の合計
※外国人人口を含む

資料：国勢調査（～H22）・人口移動調査（H26） 各年10月1日現在

○年齢別人口の状況

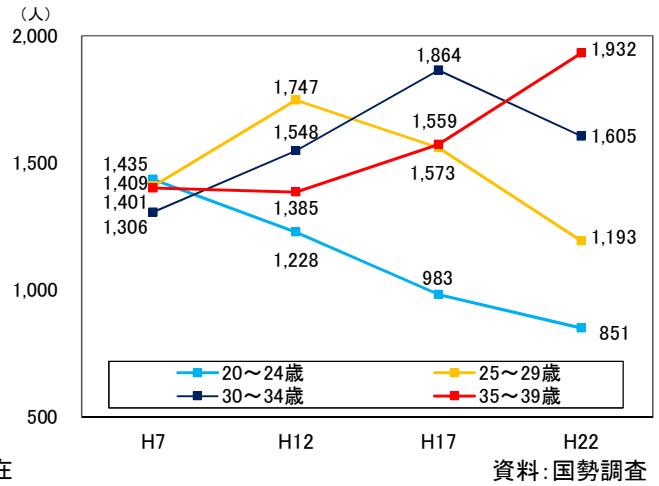
■年齢3区分別人口割合の推移



資料: 国勢調査(～H22)・人口移動調査(H26) 各年10月1日現在

🔥 徐々に少子高齢化が進行

■若年女性人口の推移

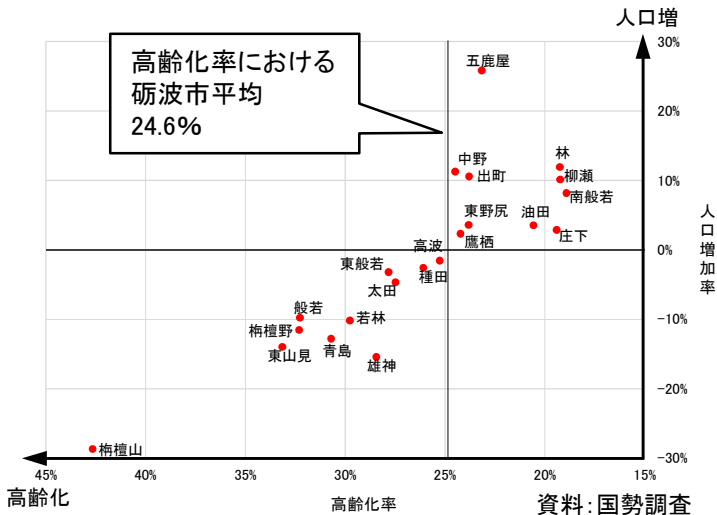


資料: 国勢調査

🔥 年代が低くなる(若くなる)ほど人口が少なくなる傾向

○地区別人口の状況

■各地区の人口増加率(H12-22)と高齢化率(H22)の関係



🔥 人口増加率が高い地区は高齢化率が低く、人口増加率が低い地区は高齢化率が高い

■地区別人口の比較

地区名	H17	H27	増減	地区名	H17	H27	増減
出町	8,035	8,491	5.7%	柳瀬	1,994	2,187	9.7%
庄下	2,463	2,449	△0.6%	太田	1,721	1,594	△7.4%
中野	1,794	1,746	△2.7%	般若	2,213	1,955	△11.7%
五鹿屋	1,996	2,196	10.0%	東般若	1,454	1,408	△3.2%
東野尻	1,911	1,992	4.2%	梅檀野	1,502	1,270	△15.4%
鷹栖	3,107	2,979	△4.1%	梅檀山	603	462	△23.4%
若林	888	793	△10.7%	東山見	2,553	2,147	△15.9%
林	3,898	4,334	11.2%	青島	2,354	2,091	△11.2%
高波	1,639	1,522	△7.1%	雄神	1,009	892	△11.6%
油田	4,735	4,708	△0.6%	種田	1,230	1,158	△5.9%
南般若	2,767	2,884	4.2%	計	49,866	49,258	△1.2%

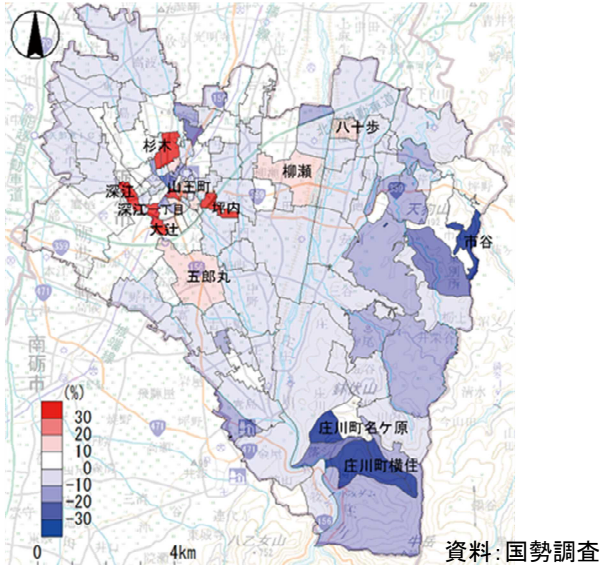
※外国人人口を含む 資料: 住民基本台帳(各年4月末)

🔥 出町、五鹿屋、林、柳瀬地区などで人口増加、庄東地域、庄川地域などでは人口減少が顕著

○町丁別*人口の状況

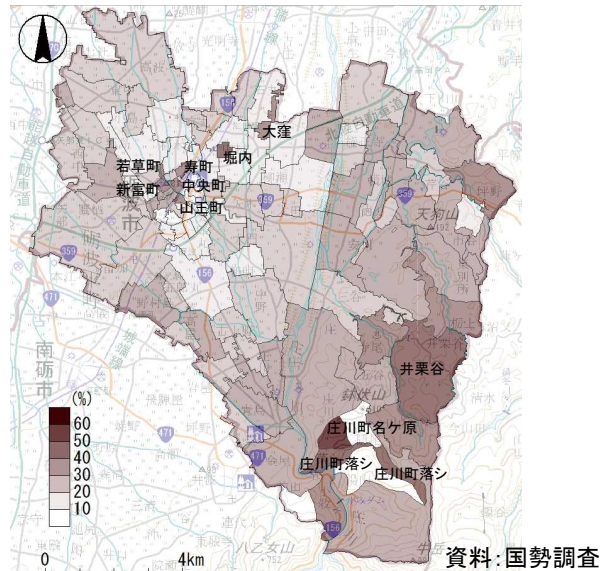
*町丁別: 国勢調査における住所表記

■町丁別人口増加率 (H17-H22)



🔥 杉木や深江、深江一丁目、坪内など市街地周縁では人口が増加し、市谷や庄川町名ヶ原など山間地では人口が著しく減少

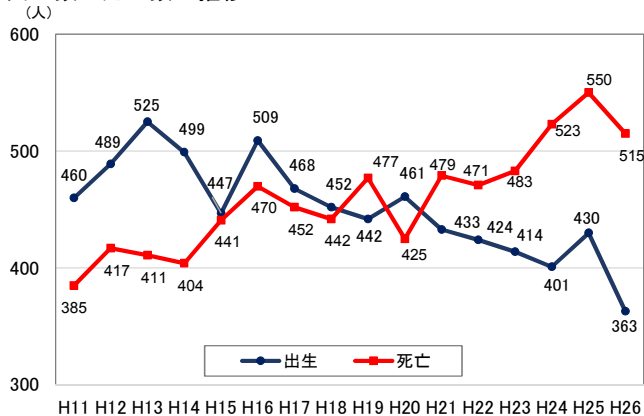
■町丁別高齢化率 (H22)



🔥 若草町や新富町、寿町、中央町、山王町など市中心部や庄川町名ヶ原、庄川町落シ、井栗谷など山間部で高齢化率が高い傾向

○自然動態・社会動態の状況

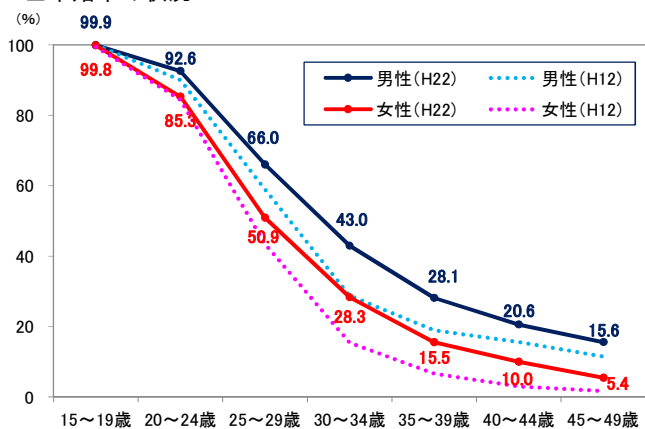
■出生数・死亡数の推移



資料:人口移動調査(前年10月1日~9月30日)

出生数は緩やかに減少、死亡数は増加傾向にあり、近年の自然動態はマイナスで推移

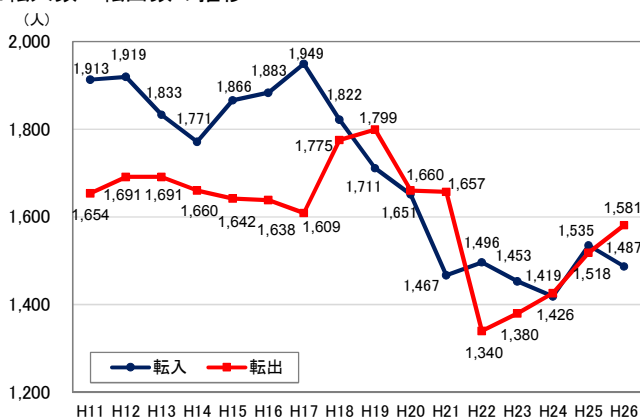
■未婚率の状況



資料:国勢調査

未婚率は、男女ともに上昇傾向

■転入数・転出数の推移



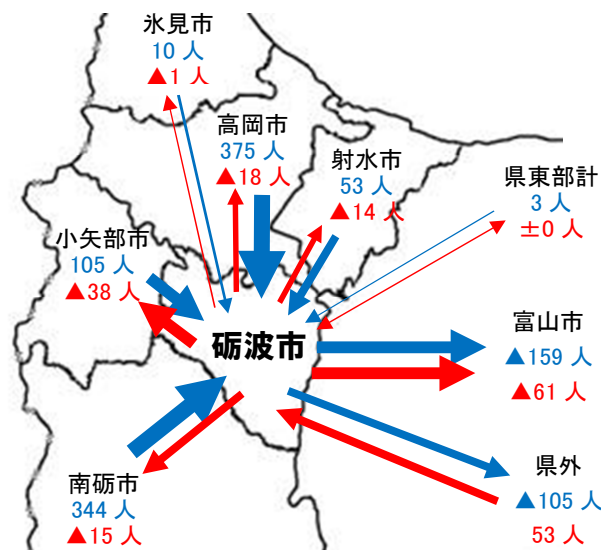
資料:人口移動調査(前年10月1日~9月30日)

H18年までは転入超過で推移、その後H19年を境に転出超過傾向で推移

■他市町村間との人口移動

青矢印:H17年~H22年の移動

赤矢印:H25年10月~H26年9月の移動



資料:国勢調査(H17~H22)・人口移動調査(H25年10月~H26年9月)

H17年からH22年の県内移動は高岡市や南砺市を中心に転入超過傾向

H25年10月からH26年9月の県内移動は、富山市や南砺市、小矢部市などを境に転出超過傾向

■合計特殊出生率の推移

	H21	H22	H23	H24	H25
砺波市	1.37	1.56	1.51	1.39	1.53
富山県	1.37	1.42	1.37	1.42	1.43
全国	1.37	1.39	1.39	1.41	1.43

資料:人口動態統計

合計特殊出生率1.53は、県や国を上回っているものの、人口を維持する基準である人口置換水準2.07には満たない

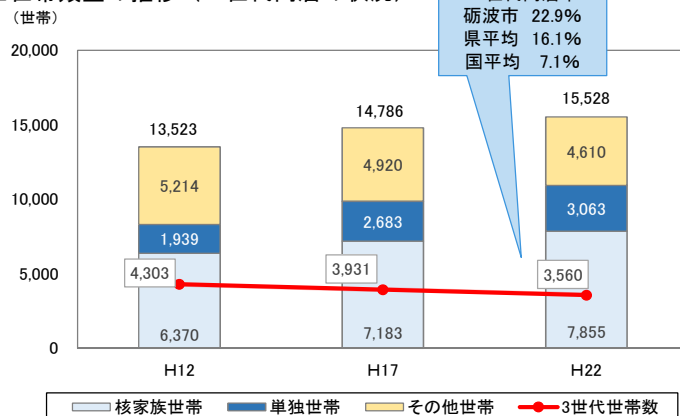
■夫婦共働き率の状況

	砺波市	富山県	国
H22	62.7%	54.7%	45.4%

資料:国勢調査

夫婦共働き率は、国や県に比べて高い水準

■世帯類型の推移 (三世同居の状況)



資料:国勢調査

三世同居率は、国や県に比べて高い水準

目標人口

2060年の目標人口 **40,000人**

実現に向けての考え方

産業の振興による雇用の創出

- 若者の地元定着やUターンの促進を目指し、魅力ある雇用を確保
- 既存企業に対する支援や企業誘致、起業・創業支援など様々な産業を育成
- 農業・伝統工芸など地域産業の魅力創出と後継者の確保・育成

砺波の魅力発信と交流・定住人口の拡大

- 観光資源や地域資源などの魅力を創出し、交流人口を拡大
- 「砺波市に住んでみたい、帰ってきたい」と思わせる砺波暮らしの魅力発信
- 伝統的家屋などの空き家を定住・半定住の拠点として活用

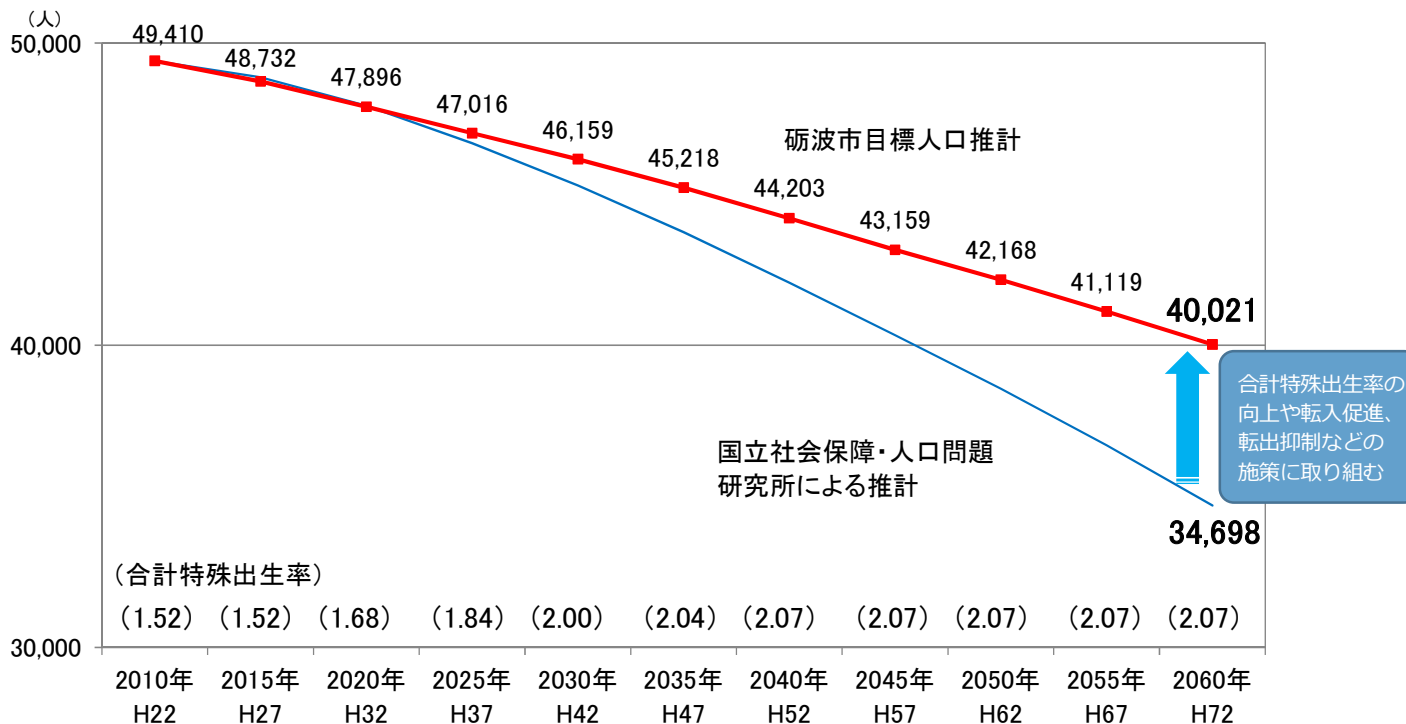
結婚・出産・子育ての切れ目ない支援と女性にやさしいまちづくり

- 地域ぐるみで結婚に対する支援を充実
- 子どもを産み育てやすい地域社会を実現
- 女性にやさしいまちづくりを推進することで、結婚・子育て世代の呼び込みを図る

散居村の豊かな生活環境の中で、人の絆で支え合う「住みよい」まちづくり

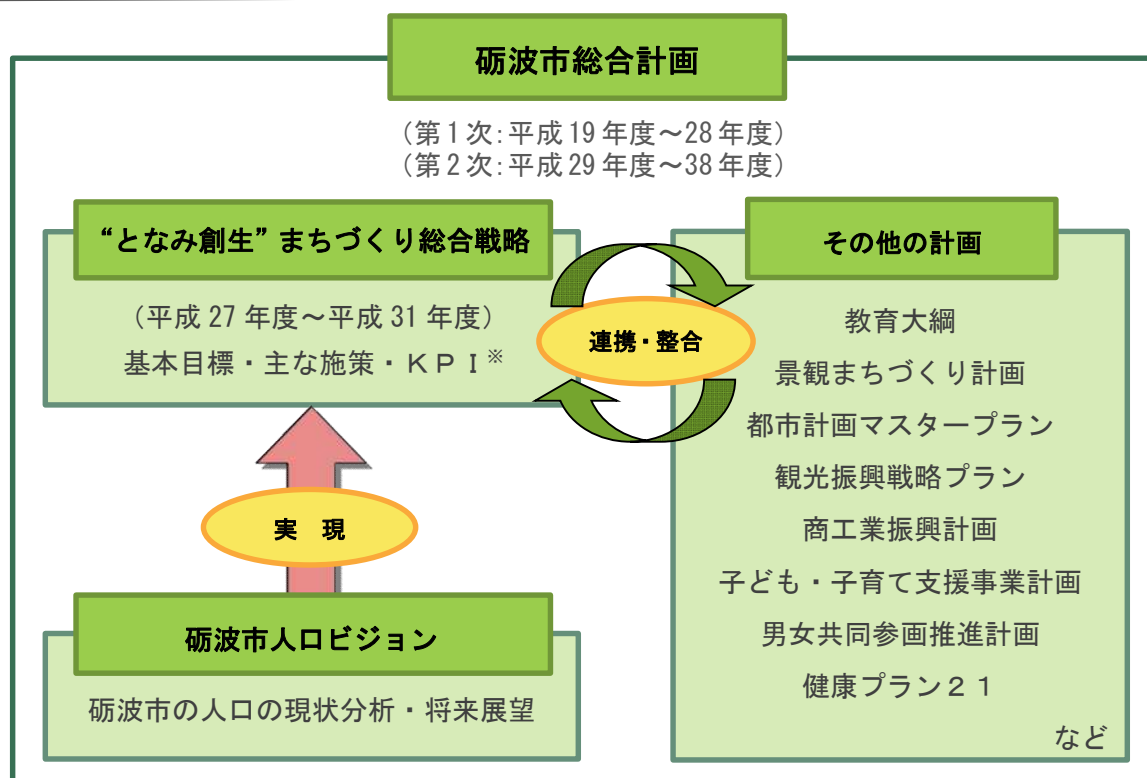
- 自然環境や日常生活の利便性などの強みを生かした「住みよい砺波市」を維持
- 三世同居・近居を推進し、世代間で支え合う持続可能な社会を実現
- 地域コミュニティなど人の絆で支え合うあたたかい地域づくりを推進

目標人口の2060年までの推移



“となみ創生”まちづくり総合戦略

総合戦略の位置づけ



※KPI(Key Performance Indicator、重要業績評価指標)：施策ごとの進捗状況を検証するために設定する指標

目指すべき方向性

本市は、庄川の清流が育んだ広大な扇状地に家屋が点在する「散居村」の美しい景観に恵まれ、豊かな自然環境と生活の利便性が調和し、災害や犯罪が少ないなど、ゆとりのある空間の中で生活し、子どもを産み、育てることができる恵まれた環境にあります。

また、全国トップレベルに位置付けられる住みよさ（東洋経済新報社 2015 年「住みよさランキング」において全国 8 位）や地域の連帯の強さは、本市の大きな魅力であり、市民と行政が一体となって取り組みを進めていく土台となっています。

「“となみ創生”まちづくり総合戦略」においては、「砺波市人口ビジョン」を踏まえ、以下の 4 つの基本目標を柱として“となみ創生”を目指していきます。

4つの基本目標

- | | |
|--------|-------------------------------------|
| 基本目標 1 | 産業を育み、安定した雇用を創出する仕組みづくり |
| 基本目標 2 | ふるさとの魅力を発信し、人を呼び込む・呼び戻す活力あるまちづくり |
| 基本目標 3 | 若い世代の結婚、出産、子育て、教育の希望をかなえる環境づくり |
| 基本目標 4 | 砺波らしい生活環境を守り育て、すべての世代が安心して暮らせる地域づくり |

基本目標 1

産業を育み、安定した雇用を創出する仕組みづくり

- 既存企業に対する支援や起業・創業に対する支援の充実を図ることで、さまざまな産業を育成し、若者の地元定着やUターンの促進を目指した魅力ある雇用を確保する。
- 農商工連携や6次産業化の推進や、特産振興作物の生産性の向上を図るとともに、農業や伝統工芸など地域産業の魅力創出に向けた取り組みにより、担い手や後継者の確保・育成を図る。
- 北陸新幹線の開業や高岡砺波スマートインターチェンジの開通など充実した交通環境を生かした新たな工場適地の整備を図るとともに、既存の工場適地への企業誘致を働きかけることで、新たな雇用を創出する。

主な施策

(1) 未来へつなぐ基幹産業の活性化と伝統産業の振興

- 基幹産業の強化 ●伝統産業の振興
- 起業・創業支援 ●コミュニティビジネスの推進

(2) 若者が誇りを持ち、いきいきと働ける仕事の創出

- 企業誘致の推進 ●雇用環境の整備

(3) 活気ある、稼ぐ農業の実現

- 担い手の育成・確保 ●農業ビジネスへの支援
- チューリップの生産拡大 ●6次産業化の推進

(4) 人が集まる、人で賑わう、活気あるまちの実現

- 商業の振興と中心市街地の賑わいづくり

■主な事業

- ・となみブランド等販路拡大支援事業
- ・創業支援事業計画に基づく創業者支援(新規)
- ・中山間地域チャレンジ事業(新規)
- ・チューリップ球根新規生産振興事業
- ・6次産業化モデル育成事業(新規)
- ・空き店舗再生みんなでチャレンジ事業

基本目標 2

ふるさとの魅力を発信し、人を呼び込む・呼び戻す活力あるまちづくり

- 屋敷林に囲まれた伝統家屋を都市からの移住者の住居としてだけでなく、交流施設や滞在型観光における宿泊施設など定住・半定住の拠点として活用し、交流・定住人口の拡大を図る。
- 四季を通して行われるイベントや伝統的な祭りなど集客力の高い観光資源・豊かな特産品・地域資源などの魅力を国内外へ向けて積極的に発信し、交流人口の拡大を図る。
- 「砺波市に住んでみたい、帰ってきたい」と思わせる砺波暮らしの魅力を積極的に発信し、I J Uターンの促進を図るとともに、大都市圏に住む若い世代の移住・定住へつなげる。

主な施策

(1) 散居景観の保全と散居暮らしの魅力を発信

- 散居景観と自然環境の保全 ●花と緑のまちづくり
- 空き家の適正管理と利活用

(2) 地域資源の活用と選ばれる観光地づくりの推進

- コミュニティ観光の推進
- おもてなし力・観光客への利便性の向上
- となみブランドの創出・魅力発信

(3) 住んでみたい、帰ってきたい、魅力あるふるさとの実現

- シティプロモーションの推進
- 移住(I J U)に対する支援

■主な事業

- ・散居景観モデル事業
- ・空き家対策事業
- ・チューリップ公園再整備事業(拡充)
- ・四季彩館リニューアル事業(拡充)
- ・「花のまち となみ」プロモーション促進事業(新規)
- ・定住促進ガイドブック作成事業(新規)

基本目標 3

若い世代の結婚、出産、子育て、教育の希望をかなえる環境づくり

- 未婚化・晩婚化に歯止めをかけるため、結婚や子育てなど家庭を築くことの喜びを積極的に啓発するとともに、出会いの場の創出や縁結びに関する相談など、地域ぐるみで若者の結婚に対する支援を図る。
- 夫婦が理想とする数の子どもを産めるよう出産・子育て・教育に対する切れ目のない支援を行い、安心して子どもを産み育てやすい環境の整備を図る。
- 男女共同参画およびワーク・ライフ・バランスの推進により、女性がいきいきと輝ける地域社会を実現するとともに、女性にやさしいまちづくりを積極的に推進し、結婚・子育て世代の呼び込みを図る。

主な施策

(1) 結婚・妊娠・出産を後押しする環境の充実

- 結婚促進に対する支援
- 妊娠・出産に対する支援

(2) 安心して子育て・教育ができる切れ目のない支援の充実

- 子育て支援環境の充実
- 保育・幼児教育の充実
- 学校教育の充実
- ふるさと教育の推進

(3) 女性が自分らしく輝ける環境の実現

- 男女共同参画の推進
- ワーク・ライフ・バランスの推進
- 女性にやさしいまちづくりの推進

■主な事業

- ・不妊治療費助成事業(拡充)
- ・「家族っていいね」啓発事業(新規)
- ・子育て支援ファイルの作成(新規)
- ・認定こども園設立支援事業(新規)
- ・3才未満児の受入れ体制の整備(新規)
- ・小中学校普通教室エアコン整備事業(新規)

基本目標 4

砺波らしい生活環境を守り育て、すべての世代が安心して暮らせる地域づくり

- 日常生活の利便性や医療・福祉の充実、犯罪・災害の少なさなど砺波らしい強みを生かした「住みよいまちづくり」を推進するとともに、健康づくりや生きがいづくりの充実を図り、健康寿命の延伸に取り組む。
- 三世代同居の推進を図り、子育てや高齢者介護など家庭生活を世代間で支え合える豊かで持続可能な社会の実現を目指す。
- ふるさと教育を推進し、郷土愛の醸成を図るとともに、地域コミュニティ活動やボランティア活動、伝統文化の継承により、世代を超えた地域のつながりを強め、人の絆で支え合うあたたかい地域づくりを進める。

主な施策

(1) みんな暮らせる、ずっと暮らせる、いきいきとした快適な暮らしの充実

- 生活基盤の整備
- 安全・安心なまちづくりの推進
- 健康づくりの推進
- 介護・福祉体制の充実
- 生きがいづくりの推進

(2) 人の絆で支え合う、世代を超えて想いをつなぐ、心がかようコミュニティの実現

- 地域コミュニティの活性化
- 三世代同居・近居の推進
- 地域の伝統文化の継承

(3) 連携事業による特色を生かした地域活性化の実現

- 広域連携の推進
- 大学連携の推進

■主な事業

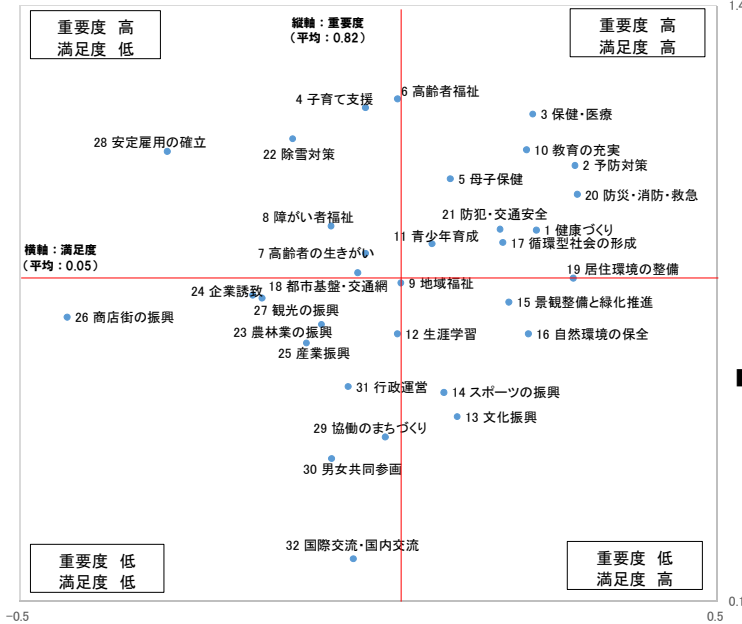
- ・デマンド交通整備事業(新規)
- ・新砺波図書館整備事業(新規)
- ・“ほっとなみ「地域の力でささえ愛」”事業(新規)
- ・新砺波体育センター整備事業(新規)
- ・空き家活用認知症カフェ事業(新規)
- ・三世代同居・近居推進事業(新規)

アンケート調査の結果

○市民アンケート(調査対象:20歳以上の男女2,000名)

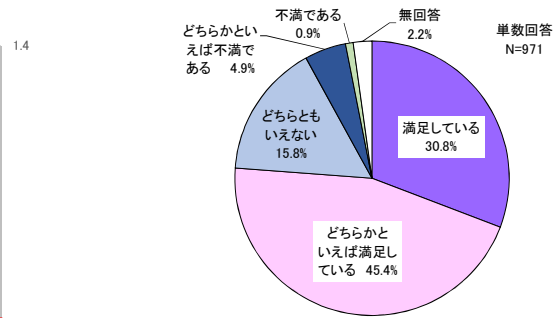
※N:集計対象総数

■施策の重要度・満足度



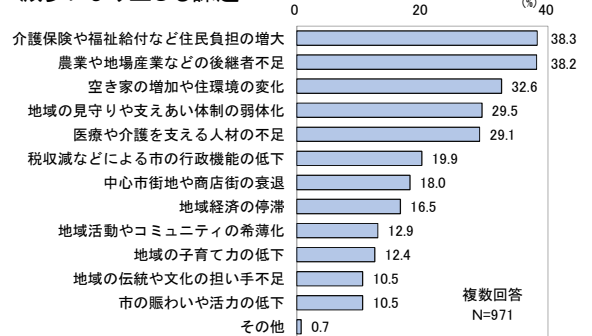
「安定雇用の確立」「除雪対策」「子育て支援」などが今後の重点課題

■砺波市の生活の満足度



76.2%が砺波市での生活に概ね満足

■人口減少により生じる課題

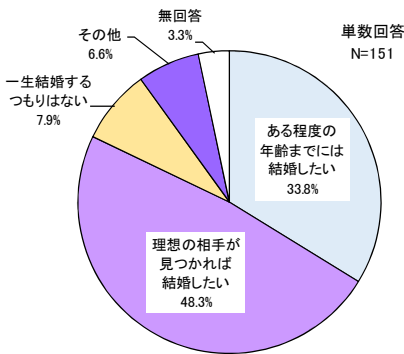


社会保障に対する負担や後継者不足、空き家問題などが懸念される

○結婚・子育て世代アンケート

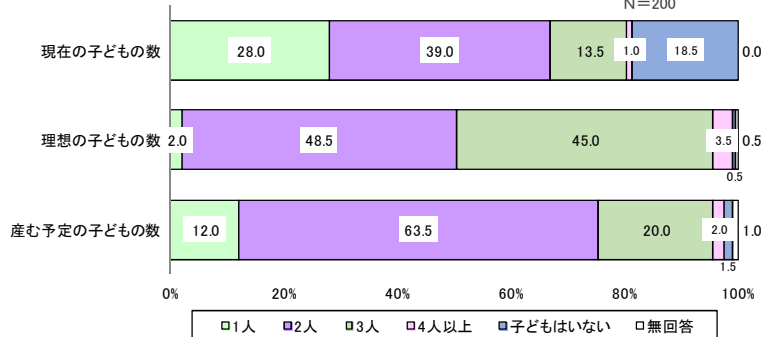
(調査対象:20歳以上40才以下の男女1,000名)

■未婚者の結婚意向



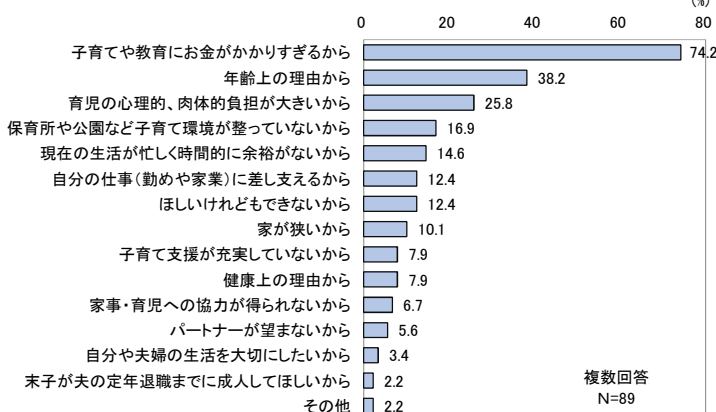
未婚者の82.1%は結婚の希望あり

■子どもの状況<既婚者対象>



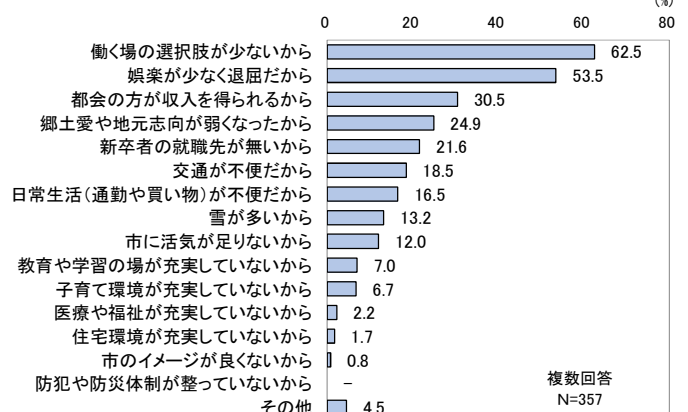
理想とする子どもの数(平均2.50人)をか纳えていない傾向

■理想の子どもを持たない理由<既婚者対象>



子育てや教育に対する金銭的負担が74.2%と最も高い

■若者が市外へ流出する理由



働く場の選択肢の少なさや娯楽の少なさなどの理由が高い